

読書通信

第11号
発行人: amagata

新書 を読んでみよう！

文庫本は主に小説などのフィクションを扱った本が多いのに
対して、新書はノンフィクションを扱った本です。15年程前
から新書ブームが始まり、養老孟司「バカの壁」(新潮新書)、
樋口裕一「頭がいい人、悪い人の話し方」(エッセイ新書)、山田真哉
「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」(光文社新書)、三浦展「下
流社会」(光文社新書)、藤原正彦「国家の品格」(新潮新書)な
どベストセラーが続出しました。そのため、多くの出版社が新
規参入し、いまでは様々な新書が出版されています。

新書は教養書・その分野の入門書的な役割もあるため、よく
大学では教科書のように扱われます。大学時代、教授は、約2
00ページの新書を約2時間で読むと言っていた記憶があるの
ですが、僕は遅読なので到底不可能です。

前記のベストセラーを始め、最近話題になった新書や手元
にあったおもしろい新書をクラス文庫に入れました。是非一度手
に取ってください。そして、読んでみてください。

【現在の蔵書へ新書】

- ・養老孟司「バカの壁」(新潮新書)
- ・樋口裕一「頭がいい人、悪い人の話し方」(エッセイ新書)
- ・山田真哉「さおだけ屋はなぜ潰れないのか？」(光文社新書)
- ・三浦展「下流社会」(光文社新書)
- ・藤原正彦「国家の品格」(新潮新書)
- ・左近司祥子編「西洋哲学の10冊」(岩波ジュニア新書)
- ・本郷和人「承久の乱」(文春新書)
- ・亀田俊和「観応の擾乱」(中公新書)
- ・呉座勇一「応仁の乱」(中公新書)
- ・井上章一「京都ぎらい」(朝日新書)

- ・増田四郎「大学でいかに学ぶか」(講談社現代新書)
- ・堤未果「ルポ貧困大国アメリカ」(岩波新書)
- ・斎藤孝「違和感のチカラ」(角川oneテーマ21)
- ・長谷川英祐「働かないアリに意義がある」(メディアファクトリー新書)

**
**
**

□ クラス文庫より □

〇〇年△△があったと「点」で憶えるだけでは歴史はお
もしろくありません。どのような背景の下で、何故その事件
が起こったのか。その事件によって、その後、世の中はどう
変わったのか。また、誰が関わったのか、等々。歴史をスト
ーリーで考え、複眼的に見ていくとおもしろくなります。そ
して、歴史の転換点には必ず大きな「いくさ」がありました。
近年話題になった三冊を紹介します。



「読書通信」
バックナンバー

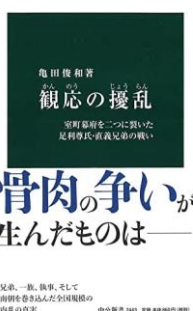
・本郷和人「承久の乱」(文春新書)

「天皇・貴族社会」から「武家社
会」への全国レベルでの実質的転
換点。文武に卓越した後鳥羽上皇
VS「東国の王」執権北条義時の
戦い。



・亀田俊和「観応の擾乱」(中公新書)

室町幕府初期、征夷大將軍足利尊
氏VS幕政を主導していた弟直
義。権力奪取を図る南朝も絡み、
全国規模に発展した内乱。



・呉座勇一「応仁の乱」(中公新書)

將軍後継問題足利義満VS足利
義尚、細川勝元VS山名宗全、管
領家畠山・斯波両氏の家督争いな
ど、京都を舞台に東西両軍に分か
れ、約十一年間続いた戦い。その
後、時代は戦国へと突入します。



後記

夏休み、ルーブル美術館で「ミ
ロのヴィーナス」を見てきました。
「モナリザ」「サモトラケのニケ」
「ミロのヴィーナス」はここを訪
れた誰もが必ず観る作品で、柵に
囲われたその周りには幾重にも人
垣ができ、皆一様にカメラやスマ
ホを向けていました。26年振り
の「ミロのヴィーナス」との対面。
彼女の顔色はくすみ、筋肉に張り
がなく、少し老けたように見えま
した。

今回一番印象に残ったのは、「サ
モトラケのニケ」でした。映画「タ
イタニク」でヒロインがタイタ
ニック号の甲板先端で両手を広げ
たポーズを取るの、この「サモ
トラケのニケ」の真似です。いま
さに飛び立とうと準備する筋肉の
状態は、大理石に彫られたとは思
われない躍動感です。「動」に変換
する直前の「静」。



やはり、一番人気は「モナリザ」
で、30分並んで、やっと辿り着
くことができました。けれども、
係員に「オンリー・ワン・フォト」
と移動を促されてしまいます。一
枚の写真を撮るために並んだ感じ
だった。